

予習確認プリント

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

・日射の調節や利用，遮蔽の際にはどのような点に気をつければよいですか？

・日射熱取得率とはどのようなものですか？

・日射遮へい係数とはどのようなものですか？日射熱取得率とはどのような関係にありますか？

・温室はどのような仕組みで暖くなるのですか？

※予習の段階に比べて，授業を聞き終わった段階では，何がわかりましたか？

5 太陽と日射 (教科書 pp. 69~82)

5 日射 (教科書 pp. 76~82)

5-3 日射の調節と利用 (教科書 pp. 78~79)

①日射の調節 (教科書 pp. 78~79)

「外壁の色での調節」の補足 (教科書 p. 79)

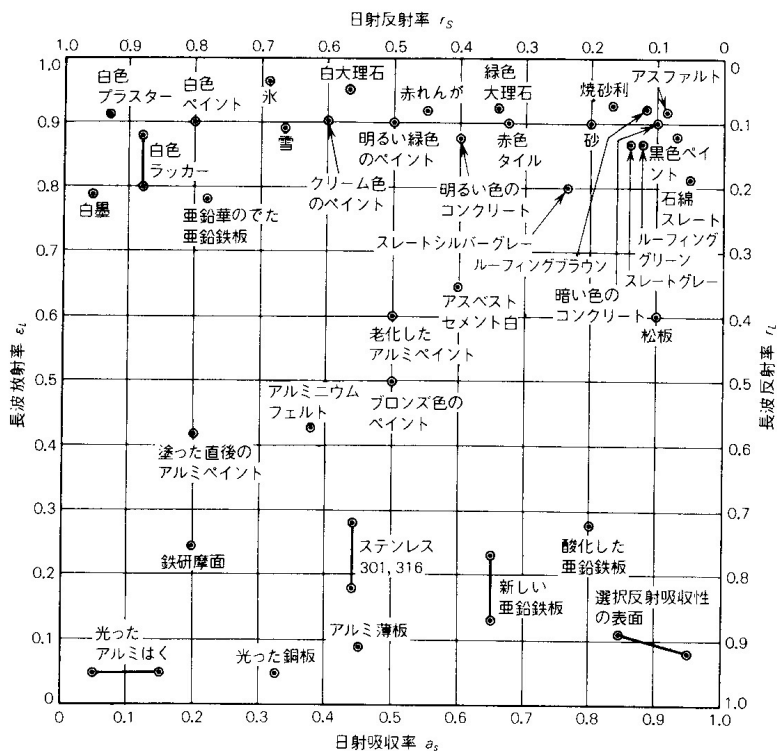


図 材料表面の日射吸収率および長波放射率 (=長波吸収率) (出典: 参考文献 [1], p. 122)

光の面に着目した日射の調節 (参考文献 [2], pp. 191~192)

昼光を積極的に室内にとりこむための装置として、例えば、下記のようなものがある。

ライトシェルフ: 採光窓の中間に設けた庇の上面で昼光を反射させて、室内に光をとりこむ。とりこんだ光をさらに天井に反射させて室内の奥の方まで光を導く。

光ダクトシステム: 採光部から昼光をとりこみ、内面を高反射率鏡面にしたダクトの内部を反射させながら室内の必要な橋余に光を運ぶ。

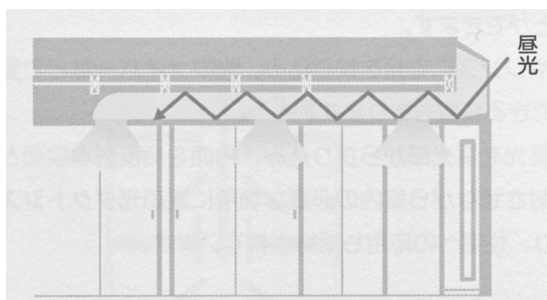
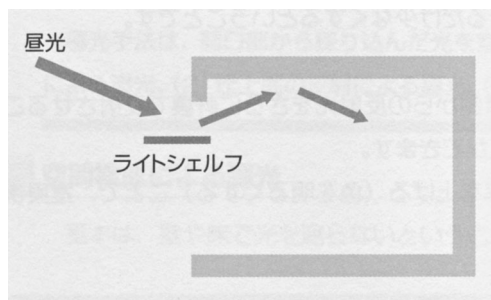


図 ライトシェルフ (出典: (参考文献 [2], p. 192) 図 光ダクトシステム (出典: (参考文献 [2], p. 192)

5-4 日射の取得と遮へい (教科書 pp. 80~81)

日射の取得と熱貫流率

・窓などの透明部分は、日射熱取得が大きい。

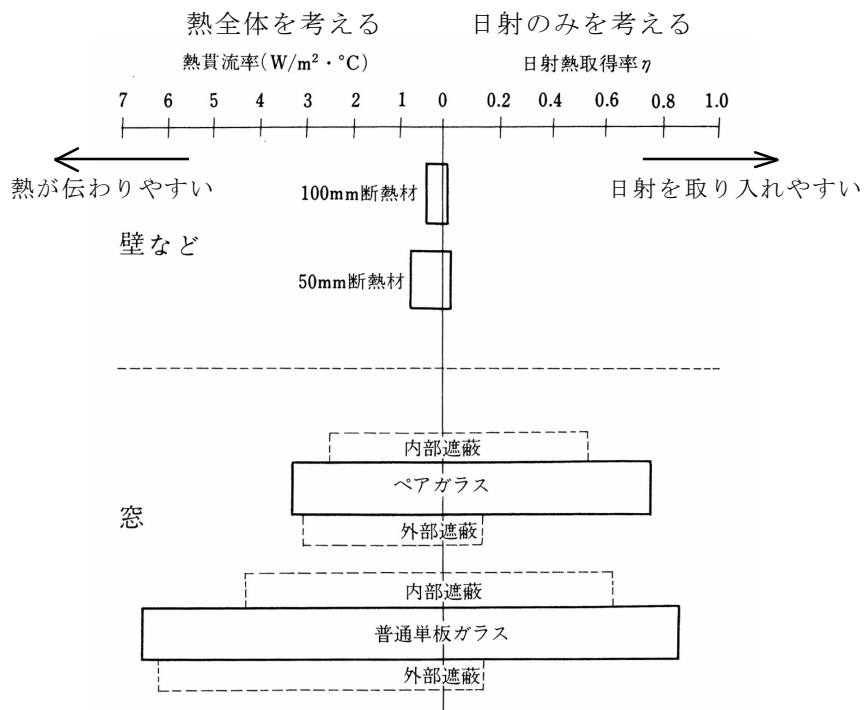


図 窓と壁の熱性能比較 (出典：参考文献 [2], p. 92)

→熱貫流率は、熱全体。一方、日射熱取得率は、日射のみに注目。

「③日除けの種類」の補足 (教科書 p. 81)

窓面における日射遮蔽手法

→教科書 p. 81 の「③日除けの種類」の他に下記の図も参照。

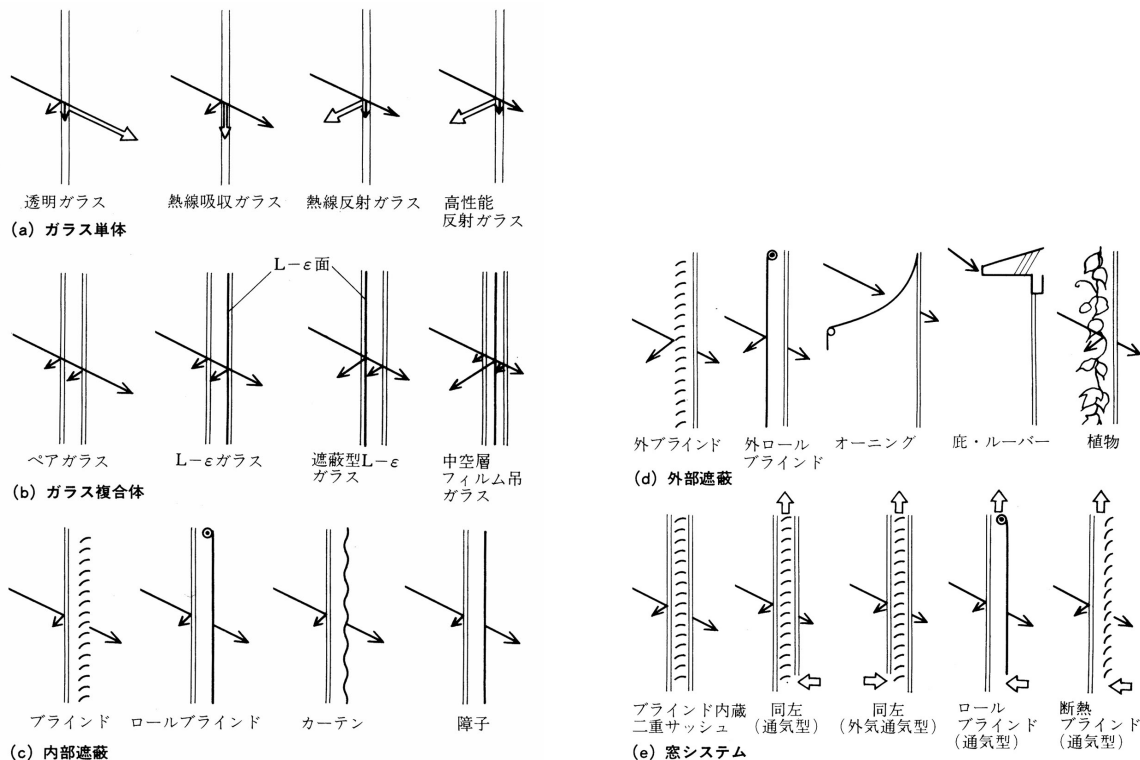
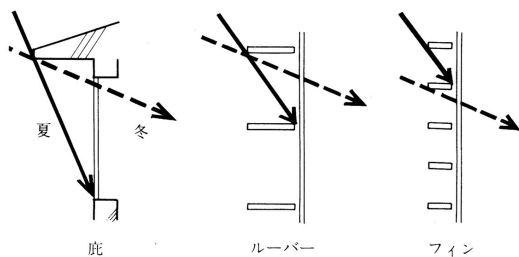


図 窓面における日射遮蔽手法 (出典：参考文献 [3], pp. 92~93)



(同じ保護角なら効果同じ)

図 南面における日射の利用と遮蔽 (出典：参考文献 [3], p. 93)

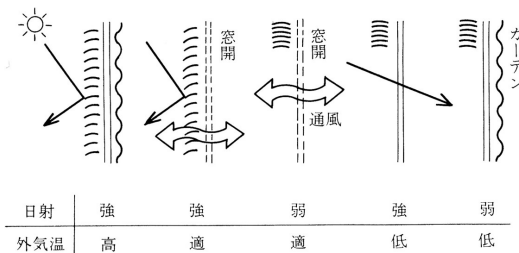


図 種々の状況への対応 (出典：参考文献 [3], p. 93)

【教科書の訂正】(第 3 版第 1 刷→第 3 版第 2 刷で訂正)

・ p. 80 「5-4 日射の取得と遮へい」の枠内の下から 2 行目

【誤】

日射熱取得率

【正】

日射の熱取得率 (3 箇所)

【教科書の訂正】(第 3 版第 2 刷→第 3 版第 3 刷で訂正)

・ p. 81 「②日射遮へい係数」の枠内の下から 2 行目

【誤】

基準となるガラスに比べて、実際に使用するガラスは、どれだけ熱を通すかということ。

【正】

基準となるガラスに比べて、実際に使用するガラス (+日除け) は、どれだけ熱を通すかということ。

【参考文献】(順に、タイトル、編著者名、出版社、発行年月、価格、ISBN。〔〕内は熊本県立大学学術情報メディアセンター図書館所蔵情報)。

- [1] 『建築設計資料集成 1 環境』(日本建築学会編, 丸善, 1978 年 6 月, ¥7,500+税, ISBN: 4-3352-2313-7924) [和書(2F), 525.1||KE 41||1, 0000157165, 0000166428] [除架, 525.08||KE3||1A, 0000064042, 0000086850]
- [2] 『図解入門 よくわかる最新照明の基本と仕組み』(松下進, 秀和システム, 2008 年 6 月, ¥2,000+税, ISBN: 978-4-7980-1976-5) [和書(2F), 545.61||Ma 88, 0000324889]
- [3] 『環境工学教科書 第二版』(環境工学教科書研究会編著, 彰国社, 2000 年 8 月, ¥3,500+税, ISBN: 4-395-00516-0) [和書(2F), 525.1||Ka 86, 0000275620, 0000308034]

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

次の問のそれぞれの記述のうち、①～④で最も不適当なものはどれか。それぞれの理由もあわせて述べよ。

【1】

- ①窓ガラスの日射熱取得率は、ガラスに入射した日射量に対する、ガラスを透過した日射量の割合で表される。
- ②夏至の日に、終日日影となる部分を、永久日影と言う。
- ③熱線吸収板ガラスは、室内への日射熱の侵入を抑える効果があるが、冬季における断熱効果については、透明板ガラスと同程度である。
- ④日射を受ける外壁面に対する相当外気温度 (SAT) は、その面における日射吸収率のほか、風速の影響などを受ける。

答え：

[理由]

【2】

- ①日影図において日影時間の等しい点を結んだものを、等時間日影線という。
- ②日射遮へい係数は、3mm 厚の普通透明ガラスの日射遮へい性能を基準として表した係数であり、その値が大きいくほど日射熱取得が小さくなる。
- ③南向き窓面に水平ルーバーを設けることは、日射・日照調整に有効である。
- ④一般的な透明板ガラスの分光透過率は、可視光線の波長域より赤外線の方の波長域の方が小さい。

答え：

[理由]